

専門演習Ⅲ

戻る

科目名	専門演習Ⅲ			コード	1060702			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期				
演習	必修	2	3～4年	前期				
担当者名	安溪 遊地							
授業概要 自転車再生工房で頑張る2年生のゼミ(基礎演習Ⅲ)でのティーチングアシスタント。晴耕雨読ならぬ「晴工雨読」で、天気がいいときは、キャンパス内で捨てられたかわいそうな自転車たちを使えるような状態に再生する。雨が降ったりしたときは、後輩のレポート作成への助言などで指導力をやしなう。インターネットやマスコミなどに情報を発信する技を学ぼう。 昨年度までの取り組みについては、 http://ankei.jp/yuji/?n=303 http://ankei.jp/yuji/?n=290 http://ankei.jp/yuji/?n=295 を参照。みんな楽しそうだった。								
到達目標 自転車再生一人2台以上。軽いフットワークと元気でチャレンジできる精神。人の話を聞き、わかりやすく話し、経験を書いて情報発信できる。そのために必要な文章を読む。それが地域の掛け人になるための基本技術。				成績評価の方法と基準 出席と自転車再生活動への指導、(60%)、再生した自転車の活用方法や、事業の拡大のためのアイデアを提言するレポート作成の指導(30%)、地域でのイベントへの参加(10%)				
学習目標			評価項目と割合					
具体的学習目標	配点比率	出席及び授業態度	小テスト	自主学習態度	レポート	プレゼンテーション	学期末試験	その他
(1) 未知の領域にもチャレンジ精神をもって望む	30	20	0	10	0	0	0	0
(2) 仲間と協力してひとつのことができる	20	20	0	0	0	0	0	0
(3) 取材と情報発信能力を身につける	30	0	0	0	10	20	0	0
(4) 写真やビデオなどの映像記録ができる	20	10	0	0	10	0	0	0
授業の項目と内容				自主学習課題				
(1) 自転車を整備して留学生に渡せるように準備する								
先輩が再生した自転車を、留学生が使えるように磨いて空気を入れて、学生支援グループに渡して留学生が利用できるようにする。				県立大の留学生の数を知り、生活のどんな側面で苦労しているかを教えてもらう。				
(2) キャンパス内探検								
キャンパス内を歩いてどのようなゴミが落ちているかをチェックし、自転車再生工房の周りをきれいにする。				キャンパス内で、「もったいない」ものは何があったか記録してみる。				
(3) 宮野探訪と地域の課題探し								
先輩がきれいにした自転車のチェックと、留学生への貸し出し。宮野駅の交流ステーションに出向いて、宮野駅の放置自転車の状況を見る。				湯田温泉の足湯付近まででかけて、そのまわりの放置自転車の状況を見る。				
(4) 自転車再生作業								
どこが悪いのかをチェックして、必要な部品をリストアップし、合計何台再生できるかを計算する。				自転車の歴史が自動車の歴史よりも新しいことをインターネットなどで学ぶ。				
(5) 自転車再生作業								
特殊な部品を使用しているなど、われわれの技術では再生不可能なものを、廃棄用を選び、可能な部品をとりはず。ゴムは外して金属のみとして廃棄。				回収された金属はどの位の値段でひきとられるのか、調べてみる。中国のオリンピックの影響でどの程度価格が変動しているかを知る。				
(6) 自転車再生作業								
工具の使い方の指導をうけて、再生に着手。必要な部品を集めて、二人一組で組み立てを始める。				天然ゴムと人造ゴムの歴史を調べ、20世紀の初め頃アフリカのコンゴ自由国でおこなわれた天然ゴム採取の強制で、「赤いゴム」と呼ばれる悲劇が起こった歴史を学ぼう。				
(7) 自転車再生作業								

タイヤとチューブの取り替え。ブレーキパッドなど、足りない部品数を調べて発注する。	2006年の北朝鮮への禁輸措置の時、古い自転車の価格がどのように変動したかを調べてみる。
(8) 自転車再生作業	
ブレーキワイヤーのとりかえとブレーキの調整。チェーンのさびおとしと調整。	中国で自転車に乗っている人と自動車に乗っている人の割合を調べ、それが1ポイント変化すると、どの程度排気ガスが出るかを試算してみる。
(9) 自転車再生作業	
かごや、ライトなどの部品の調整。	日本における酸性雨の現状と、中国における自動車使用や工業化の関連について調べてみよう。
(10) 自転車再生作業	
必要な場合は、さび止めと塗装。	YPU自転車工房のロゴを考えて、完成した自転車につける準備をしよう。
(11) 自転車再生作業	
できあがったものに乗ってみよう。安全が第一だが、大丈夫か。	自転車を完成させた気持ちをメッセージとして400字程度で書いてみよう。
(12) フィールドワーク	
放置自転車対策はどうあるべきか、宮野の地区の方の意見をきいてみよう。	自分のアパートなどにどの程度放置自転車があるかしらべてみよう。
(13) フィールドワークのまとめ	
フィールドワークで聞いた内容をまとめてみよう。	インターネットなどで放置自転車に対して日本中でどのような対策がとられているか調べてみよう。
(14) レポート作成の準備	
これまでの経緯をまとめて、レポートを書く準備をしよう。	地球環境・地域環境と自転車というテーマをめぐって、文献資料をあつめてみよう。
(15) 最終レポート作成	
1200字以上で、レポートを書いてみよう。タイトルも工夫してつけよう。	授業評価をしよう。
テキスト、参考書、教材	履修条件及び備考(レポート評価基準・その他の具体的評価内容基準等)
安溪遊地編『続やまぐちは日本― 女たちの挑戦』弦書房 木下是雄『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫(いずれも貸し出します)	自転車再生活動の輪を、やまぐちの地で楽しくひろめるための活動や、情報発信への意欲。啓発活動や情報発信など、実際の社会への働きかけのアイデアと仲間をつくっての実践力などが評価されます。
受講生へのメッセージ	
To know is one thing. To teach is another. 百回見ても一回やってみることはかなわないというその醍醐味を後輩たちや地域の人々につたえましょう。	